育心拓夢

愛媛県総合教育センター所報　№168
（令和５年３月10日発行）
https:// center.esnet.ed.jp/
〒791-1136　愛媛県松山市上野町甲650番地
TEL　089-963-3111(代)　FAX　089-963-3146

○相談支援部長挨拶　……1
○令和４年度　調査・研究発表会について　……1
○令和４年度　調査・研究の概要　……2・3
○１年間の研修を終えて　……4
○令和５年度研修講座の紹介　……4

「主体的な研修参加を」

相談支援部長　丸山　達也

本センターは、教員研修の拠点となる施設です。新任教員のフォローアップや中堅教員のキャリアアップ等を図る、経験年数や年齢に応じた基礎研修、「学校経営」や「理科」など、特定分野の専門性向上を図る専門研修、教科指導力の向上、情報、人権問題などの多様な教育課題への対応と職務実践能力の向上を図る課題別研修に加え、学校に出向いての出前講座など、教職員の資質・能力の向上を目指し、年間を通じて、様々な研修を実施しています。

私たち教員にとって、研修は欠かすことのできない職務の一つです。1949年に制定された教育公務員特例法において、「教育公務員は、その職責を遂行するために、絶えず研究と修養に努めなければならない（第21条）」と規定されています。また、2006年に改正された教育基本法第９条には、「法律に定める学校の教員は、自己の崇高な使命を深く自覚し、絶えず研究と修養に励み、その職責の遂行に努めなければならない」「前項の教員については、その使命と職責の重要性にかんがみ、その身分は尊重され、待遇の適正が期せられるとともに、養成と研修の充実が図られなければならない」と、教員の研究と修養や、養成と研修の充実などについて明示されています。

昨年７月に教員免許更新制が発展的に解消され、今年４月からは、研修履歴を活用した資質向上に関する指導助言等の仕組みの下、教員の自主的な学びを進める新たな研修制度がスタートします。

また、昨年12月には、中央教育審議会において「「令和の日本型学校教育」を担う教師の養成・採用・研修等の在り方について～「新たな教師の学びの姿」の実現と、多様な専門性を有する質の高い教職員集団の形成～（答申）」が示されました。答申の中で、「令和の日本型学校教育」を実現するためには、子どもたちの学び（授業観・学習観）の転換とともに、教師自身の学び（研修観）の転換を図る必要性が指摘されています。

「新たな教師の学びの姿」として求められているのは、教師一人一人が自らの専門性を高めていく営みであると自覚しながら、常に学び続ける姿勢を持ち、誇りを持って主体的に研修に取り組むことです。愛媛の子どもたちのために、一緒に頑張っていきましょう。

令和４年度 調査・研究発表会について

本年度の調査・研究発表会は、２月10日に、初めて集合とオンラインを併せたハイフレックス型として開催しました。おかげさまで、250名を超える学校関係者の皆様に御参加いただきました。

研究主題「未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援」の下、本センタープロジェクトチームによる若手教員の支援に関する内容や、各室及び長期研修講座受講者の研究の合わせて７本の発表を行いました（詳細は次ページ以降を参照）。各発表に対して、参加者からの熱心な質問が相次ぎ、充実した時間となりました。その後、文部科学省初等中等教育局 直山木綿子 視学官に、「いま、教員に求められている指導力とは－「個別最適な学び」と「協働的な学び」を一体的に充実させるために－」と題して、バイタリティにあふれた講演を行っていただきました。講演では、学習指導要領に示された「主体的・対話的で深い学び」に向けた授業改善の具体について、分かりやすく御教示くださいました。

参加者からは、「“子どもの学びのスイッチを入れる”という言葉が印象に残りました。」「今の自分の指導と照らし合わせて、これはできている、これはできていないと振り返りながら聞くことができ、主体的な研修となりました。」などの感想が寄せられました。

企画開発室

学校のチーム力向上を目指したサポーティブな組織づくりの在り方ー学校事務職員のよりよい校務運営参画に向けた研修講座の開発を通してー

社会に求められている学校の果たす役割が拡大していく中、「チームとしての学校」の実現が求められています。そこで、本研究では、学校事務職員と教員が互いに支え合えるサポーティブな組織の在り方について考察するとともに、学校事務職員のよりよい校務運営参画を目指した研修講座の企画・立案を行いました。

先行研究の調査やアンケート調査等により、学校事務において実務の中核を担う専門員や主任に求められる資質・能力について分析し、「情報処理能力」「対人関係力」「組織貢献力」が特に重要であると捉えました。

また、サポーティブな組織づくりのためには、教員と学校事務職員が、学校教育目標の実現に向けて、相互の業務や課題等を理解・共有し、協働する機会を持つことで、やりがいや信頼関係が高まり、それが「子どもたちのよりよい成長のための学校づくり」につながると、考察しました。

本研究の結果を踏まえ、令和５年度から、専門員、主任を対象とする新規研修講座を開設します。

情報教育室

自己教育力を育むための１人１台端末活用に関する研究ー「ＩＣＴ表現スキル」の向上を図る授業実践を通してー

これからの情報化社会を生き抜くための学力・行動力を身に付けさせるには、確かなＩＣＴ活用スキルの下での、自己教育力の育成が重要であると考え、研究に取り組みました。愛媛県ＩＣＴ教育推進ガイドラインの「ＩＣＴ表現スキル」に着目し、達成度基準の評価モデルや自己教育力の高まりを見取る振返りカードを用いて、研究員２名に授業実践をしていただきました。

授業実践から、子どもが１人１台端末を活用して、自分の考えを整理したり、相手に分かりやすい表現になるように工夫したりする活動は、「ＩＣＴ表現スキル」の向上に有効であることを検証できました。そして、子どもに任せる部分を保障することや、振返りの場を確保し、子どもが自らの学びを省察して学習活動に生かすこと、試行錯誤できる場を設けることが、子どもの学びに対する意欲を喚起し、自己教育力の育成につながることを確認しました。

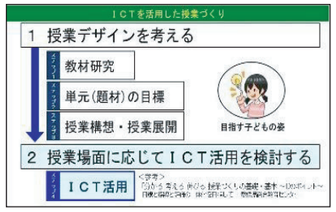
教科教育室

学習指導に生かせる効果的なＩＣＴ活用の在り方ー教科目標の達成を目指してー

効果的な場面でＩＣＴを活用し、分かりやすい授業を行うことで、「主体的・対話的で深い学び」が実現され、教科の学びが深まると考え、２か年継続の研究に取り組むこととしました。

本年度は、基礎研修や課題別研修等でＩＣＴ活用に関わる研修を実施し、キャリアアップ研修Ⅱの受講者対象にアンケートを行いました。その結果、多くの教員が、ＩＣＴ活用の効果を感じている一方で、「思考を深める学習」「個に応じた学習」「協働での意見整理」の場面における活用方法に課題があり、研修の必要性を感じていることが分かりました。そこで、教科目標の達成を目指した効果的なＩＣＴ活用について、動画を作成し、研修動画セットにまとめました。

次年度は、本セットを県下の学校へ提供するとともに、ＩＣＴを効果的に活用した「思考を深める授業」の支援に向けて研究を進める予定です。



教育相談室

いじめの早期対応に関する研究ー教職員の対応力向上を目指した研修資料の活用を通してー

昨年度の研究で実施した「いじめの早期対応に関するアンケート調査」の結果から得られた課題を基に、教職員の対応力の向上を目指した研修資料を作成しました。本資料は、動画資料、意見交換資料、ハンドブック資料の三つで構成しており、各学校の校内研修等で活用できるように工夫しています。

協力学校における実践では、これらの資料を活用して、２回の校内研修を実施しました。実践後に行ったアンケートには、「保護者の来校時や電話での対応時に共感的態度で接することができた。」「生徒と接するときに、何か抱えていることがあるのではないかと、その生徒の背景にあるものを今まで以上に想像するようになった。」「報告に関することについて、連絡を密にしなければならないと思うようになった。」等の肯定的な意見が挙がっていました。このことから、作成した研修資料が、いじめの早期対応に関する教職員の対応力の向上を図るものとして適切な内容であることを確認できました。

今後は、更に改善を加え、作成した研修資料を本センターのホームページに掲載する予定です。

令和４年度 愛媛県総合教育センター調査・研究の概要

〔研究主題〕　未来を創造する力を育む学校教育への総合的な支援

特別支援教育室

生活単元学習の授業づくりに関する研究ー各教科等とのつながりのある単元設定から学習評価までの考え方ー

特別支援学校学習指導要領では指導と評価の一体化の必要性が示され、学習評価に関する通知では授業改善の一連の過程に学習評価を適切に位置付けることが求められています。また、「各教科等を合わせた指導」においても、各教科等の目標や内容を取り扱うことや、それに準拠する評価を目指すとの方針が示されました。そこで、生活単元学習における各教科等とのつながりや学習評価の在り方に関する資料を作成し提供することで、特別支援学級等を支援することができると考え、２か年継続の研究として取り組むこととしました。

本年度は、資料の名称を「「主体的・対話的で深い学び」を実現する生活単元学習の授業づくりガイドブック」とし、案を作成しました。そして、アンケート調査と意見交換会（ウェブ会議）による研究員への意見聴取を基に、内容の検討及び改善を行いました。

次年度は、「ガイドブック(案)」を用いた生活単元学習の授業づくりの実践を行うとともに、更に改善と修正を加え、ホームページに掲載して、提供したいと考えています。

短期研修講座受講者

ＡＣアダプターの自作教材化の研究

愛媛県立新居浜西高等学校　　田頭　邦弘

ＡＣアダプターは、交流を直流に変換する装置で、高校物理の電磁気分野の学習内容が豊富に含まれています。そこで、ＡＣアダプターの変圧・整流・平滑の機能を視覚的に示す教材開発を行いました。ダイオードによる整流作用やコンデンサーによる平滑化について、期待どおりの結果を得ることができ、教材としての有効性を確認しました。

ラウールの法則に関する研究ー教材化に向けた検討ー

愛媛県立松山北高等学校　　白石　健祐

ラウールの法則は希薄溶液に適用されるもので、蒸気圧降下の現象について成り立ち、束一的性質を持ちます。蒸気圧降下の現象について理解することは大切ですが、高校の実験室で蒸気圧を測定することは難しく、イメージをつかむことが困難です。そこで、本研究では蒸気圧の差を目で見て分かるような実験モデルの検討を試みました。

コオロギの記憶メカニズムの解明

愛媛県立大洲高等学校　　藤岡　　哲

高校生物では、「動物の反応と行動」の単元で、動物の生得的行動や習得的行動について学習しますが、動物の行動を対象とした実験教材はあまりありません。本研究では、フタホシコオロギが学習能力を持つことを行動の変化によって確認する実験系を確立するために、試験方法や試験装置の開発を行い、教材としての有効性を検証しました。

長期研修講座受講者

主体的に学びに向かう生徒を育てるための指導と評価の一体化の工夫ーＩＣＴを用いた授業の振返りの充実を通してー

三原　慶彦

日々の授業で形成的評価を行い、学習や指導の改善に生かすという指導と評価の一体化の重要性は、多く指摘されています。この指導と評価の一体化に、効率的、持続的に取り組む方法を研究し、有効性を検証しました。

方法は、①授業の終末に、生徒がオンラインフォームを使って振返りをする、②教師が生徒の記述をテキストマイニング等により分析し、生徒の学習状況を読み取り、指導の改善点を考える、③教師が各生徒にオンラインでコメントを返すとし、毎時間実施しました。

その結果、教師は、生徒の学習状況を効率的に評価でき、指導の改善ができました。さらに、生徒に的確な助言ができ、生徒との信頼関係が深まりました。生徒は、振返りを書くことで学習内容を整理し、教師のコメントから学びを深めました。これらの活動を通じ、生徒の主体的に学びに向かう力が高まりました。

本センター研究の成果について

本センターの研究成果物は、ホームページからダウンロードすることができます。ぜひ、御活用ください。　アドレス　https://center.esnet.ed.jp/

若手教員支援プロジェクトチーム

若手教員への「愛」ある支援プロジェクトー総合教育センターの研修・教育相談・学校支援を通してー

本プロジェクトは、教職経験がおおむね５年未満の教員（若手教員）を対象とした支援事業です。本年度の主な取組は、次のとおりです。

〇出前講座における個別相談の実施
〇オンデマンド動画の提供
〇基礎研修における協議の場の充実
〇相談事業に関するリーフレットの作成・配付
〇「経験の少ない教員」に対する支援
〇関係機関やセンター各室と連携した支援

プロジェクトチームを立ち上げたことにより、関係諸機関やセンター各室で連携し、情報共有やきめ細やかな支援を行うことができました。また、若手教員の具体的な悩みを把握するとともに、一人一人に応じた支援が大切であることが分かりました。

今後も、本プロジェクトの取組を継続し、来年度の研修の中で生かしていきたいと考えています。

１年間の研修を終えて

＜県立学校初任者研修＞

「１年間を振り返って」

川之江高等学校
教諭　増田　奈桜

初任者として着任以来、あっという間に１年がたちました。最初の数か月は不安と緊張の連続でしたが、年間を通じて様々な経験を積む中で、教員としての姿勢や生徒への指導の在り方などを学び、今では教員としての責任を自覚し、仕事を行うことができるようになりました。私がここまで成長できた大きな原動力が、初任者研修です。研修では、多くの充実した講座を受講させていただきました。特に、総合教育センターでの「特別活動の在り方」の講座で、生徒に向き合うことの大切さを学んだことが強く印象に残っており、その後の生徒指導や部活動指導で実際に役立てることができました。最後に、初任者研修でお世話になった総合教育センター指導主事や指導教員、教科指導員、そのほか全ての先生方に深く感謝申し上げます。

＜小・中学校キャリアアップ研修Ⅱ＞

「キャリアアップ研修Ⅱを振り返って」

伊予市立北山崎小学校
教諭　三原佑太郎

校外研修では、教科指導研修をはじめ、生徒指導研修や社会体験研修などを通して、専門性や指導力の向上を図ることができました。どの講義も現場の課題に沿った内容であり、学んだことを実践で生かすことができました。また、教職経験年数の近い先生方と共に学ぶことで、互いに高め合いながら研修に励むことができたと思います。校内研修では、「より妥当な考えをつくり出す力を育てる工夫ー理科学習を通してー」を研究主題として、教材研究や研究授業を行いました。多くの先生方に助言を頂きながら、研修を深めることができました。

職場にも自分より若い先生方が増えてきました。今回の研修で学んだことを生かしながら、中堅教諭としての自覚を持ち、職務に励んでいきたいです。

令和５年度研修講座の紹介

【基礎研修】

基礎研修は、教職員のキャリアステージに応じて、初任者研修・新規採用教員研修、フォローアップ研修、中堅教諭等資質向上研修としてのキャリアアップ研修Ⅰ・Ⅱ・Ⅲを実施します。

【専門研修】

専門研修は、新規講座「【専門員・主任】専門性を生かした校務運営参画のために」を加えた12講座を実施する予定です。一部の研修で、オンラインを活用した研修を実施します。

【事務係長】ミドルリーダー研修

【課題別研修】

課題別研修では、「【情報】ＣＢＴシステム（ＥＩＬＳ）の基本的な活用」などの新規４講座を含め、73講座を開設予定です。課題別研修で実施するオンライン研修は33講座で、そのうち14講座は集合せず、全てオンラインで実施する講座となっています。

【出前講座】

出前講座では、本センターの指導主事が、対面やオンラインで、校内研修のほか、教科等研究委員会や市町教育委員会が主催する研修等を支援しています。令和５年度は、「子どもが安心して学び、生活できる学級（ホームルーム）づくり」などの、新規講座２講座を含め、50講座を開設予定です。

【専門研修・課題別研修の申込みについて】

専門研修の一部と課題別研修について、令和５年度は申込みを２回行います。１回目の申込みは、小中学校は５月中旬、県立学校は６月上旬を予定しております。１回目で全ての講座の受講申込みが可能です。１回目の申込みで定員となった講座は、原則２回目の募集は行いません。２回目の申込みは、７月下旬から行い、10月以降の研修講座の募集を行います。定員を満たした講座及び申込み可能な講座については、研修管理システムの「お知らせ」で周知する予定です。

総合教育センターホームページのURL
https://center.esnet.ed.jp/

交通安全推進メールマガジンの配信について

これまで、各校が取り組まれた交通安全推進研修会の取組事例や交通安全に関するサイトの情報等を紹介してまいりました。今後も有益な情報の発信に努めますので、教職員の交通事故・交通違反の撲滅を目指して、交通安全研修に積極的に活用していただければ幸いです。